

### シリーズ 3、富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン③

シュウメイギク、宿根アスター  
クジャクアスター、ヤナギバヒマワリ

職藝学院  
教授 渡邊美保子

日本の秋になじむ宿根草の組み合わせをご紹介します。写真1は、濃い桃色のシュウメイギク、黄色のヤナギバヒマワリ、紫色の宿根アスター、白のクジャクアスターです。

写真2は、手前から紫色の宿根アスター、

赤紫色のフジバカマ、白のクジャクアスターです。いずれも、日当たりが良く水はけのよ



写真1

い所を好みます。これらの組み合わせは、花壇の奥に配置することをお勧めします。春から初夏に咲く、草丈が60cmを超えない一年草などを組み合わせ手前に植えておきますと、春から秋の終わりまで季節をつなぐように花の彩を楽しむことができます。また、宿根アスターやクジャクアスターは植えてから2年日以降は、春先から初夏にかけてたくさんの茎が地際から群がるようにたくさん伸びてくるので、6月から勢いよく伸びてくるメヒシバなどの雑草が入り込まなくなります。

写真1の組み合わせでは、8月に入るとシ



写真2

ユウメイギクにつぼみをもった花茎が伸びてきます。シュウメイギクは開花するまでがとても長く、思わせぶりに丸いつぼみを膨らませてはいるもののいつまでたっても花らしきものが咲きません。一方、葉がわさわさと地面を覆ってゆき、葉っぱで蓄えた栄養分をつぼみに送っているのが良くわかります。秋に咲くイメージがありますが、お盆を過ぎると知らない間にぼつりぼつりと咲き始めています。9月に入ると紫色の宿根アスターがシュウメイギクを追いかけるように咲き始め、その後、ヤナギバヒマワリの茎が垂直に伸びてきます。濃い黄色の花が咲いてから、「あーそうだった、ここにも植えたんだ」と毎年思うくらい、咲きだすまではかわいそうなくらい存在感がありません。宿根アスター類は、草丈が1mを超えるものがあり、花が咲く頃になると花茎が噴水状に広がって暴れてしまいます。夏の終わりになると、窮屈そうに茎をたばねられた、まるで照る照る坊主をひっくり返したようなクジャクアスターをよく見かけますよね。これを解決する良い方法があります。5月下旬から6月始めぐらいまでに伸びた茎を半分ほど刈り込みますと80cmぐらいで開花し支柱が不要になります。もっと短く咲かせたい方は、5月中旬頃に刈り込むと良いでしょう。この方法は、草丈が高くなる宿根サルビア類でも応用できます。